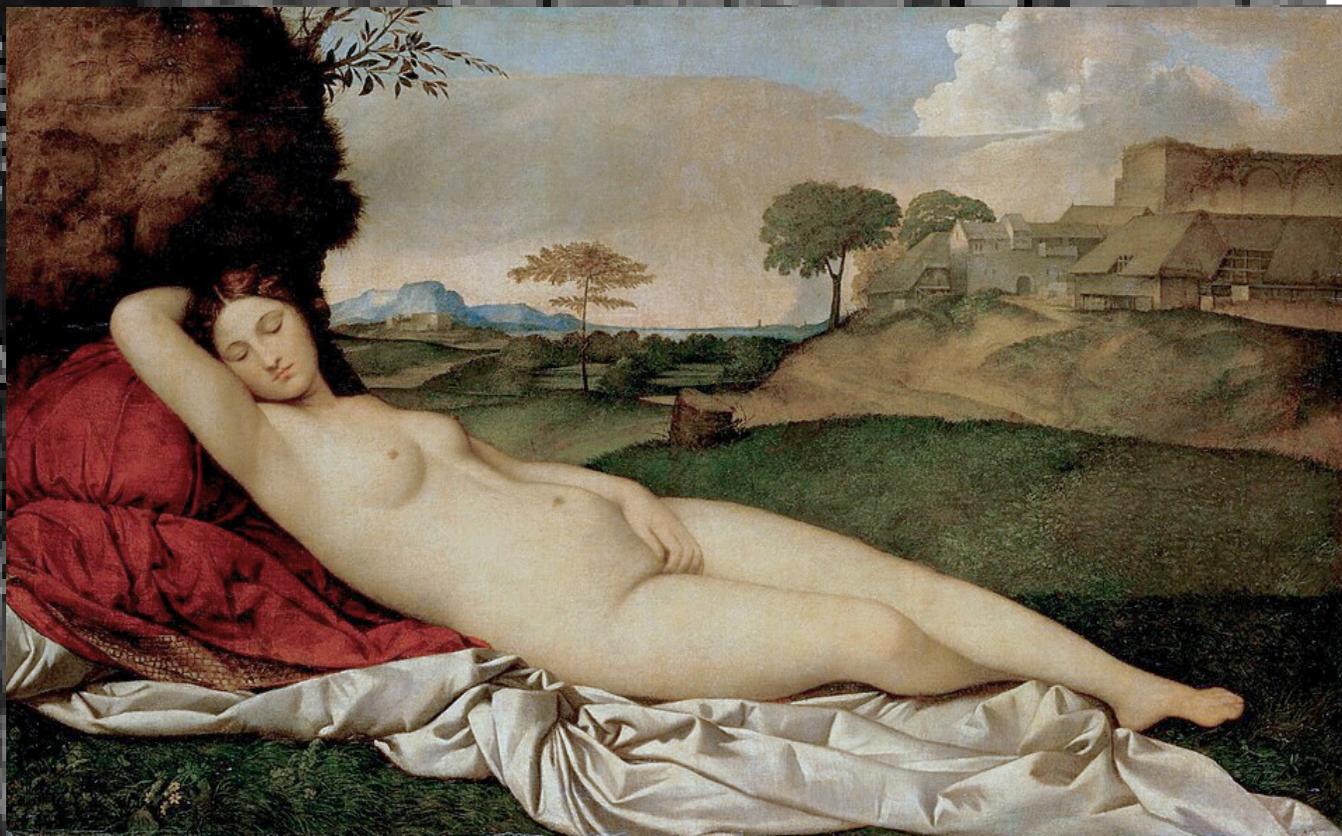


先端研院生  
プロジェクト  
スタートアップ  
報告会

# イメージと 政治神学



## 「世俗化された神学」

「近代国家論における主要概念の多くは、神学的概念の世俗化である」。シュミットの分析を受け止めたのはジョルジョ・アガンベンだ。イメージと政治の神学的紐帯。19世紀以降、神学的な語彙は宗教的意味を薄めながらも、むしろ生政治やデータベース的統治性として再編・強化されている。例えば、アルフォンソ・ベルティヨンによる犯罪者識別の技術（ベルティヨン方式）や、チャーザレ・ロンブローゾの犯罪人類学は、身体の測定と写真によって個人を管理する試みであり、その根底にはキリスト教的な「罪」への応答としての神学的残滓が、制度的形で残存している。また、ジョヴァンニ・モレッリの絵画鑑定法もこの系譜に連なる——作者を判別するための細部への注視は、神学的同一性概念の世俗化された反復とも言えるだろう。

## ポルノグラフィ

アガンベンは、ポルノグラフィを「神学的身体像への冒瀆」として位置づける（『到来する共同体』1990年）。19世紀初頭、リトグラフや写真術の発明により、人間の容姿は神の似姿としての役割を脱し、〈なんであれかまわないもの〉としてのイメージへと変化した。この商品化された身体は、神学的モデルから自由になる一方で、なおも類似性を保持する。「元型のない類似性」、すなわち〈イデア〉としての身体像の登場である。アガンベンは、人間の身体イメージを徹底して冒瀆することによって、身体を生政治に接続する神学的な回路を断ち切る可能性を探る。

代表者連絡先

TOKUNAGALT1234HI@GMAIL.COM